

序

以前にも「レジデントノート」の月刊に限られた領域に関する生理学の特集（その疑問，生理学で氷解！ レジデントノート，Vol.17 No.9, 2015）を組み何人かの先生に執筆していただいた。本増刊の企画を引き受けたときには，前回と同様の規模のものだろうと考えていたが，実際に企画の内容をみると前回よりも大規模で広範囲のものであった。分野としても，生理学として循環器，呼吸器，腎臓，内分泌代謝，血液と解剖として頸部，上肢，下肢と多岐に渡っていた。私は麻酔科医であり，麻酔科医にはこれらすべての分野の知識が必要であり麻酔科医のなかで執筆者を探すことも考えたが，やはり広い分野であるので今回の企画に関してはそれぞれの分野のエキスパートの先生方をお願いすることにした。そして単に基礎的な解剖学，生理学に留まるのではなく，実臨床で遭遇する各種疾患の病態生理からそれらの疾患の治療戦略までをわかりやすく解説していただいた。結果として研修医や専攻医だけでなく専門医の先生方にも有用なものに仕上がったと考えている。

学生時代にはまず解剖学や生理学などの基礎の科目を勉強し，それから臨床の科目に進むのが今の医学教育である。私が解剖学や生理学を習ったときには，どのような知識が臨床で重要になるのか全くわからずにひたすら知識を詰め込んでいた。私は臨床に進んだら生理学が重要になることに気づき5年生のときにもう一度生理学を復習したが，このことは今でも役に立っている。解剖学の知識に関しては卒業して麻酔科に入ってから復習することになったが，解剖学も生理学も臨床をやっていくうえで非常に重要であることはいうまでもない。特に外科系の医師には必須の知識である。

何事も基礎がしっかりしていなければその後の発展は容易ではない。研修医や専攻医の先生方にはぜひ読んでいただいて，基礎の部分をしっかり固めていただければと考えている。

2021年6月

関西医科大学麻酔科学講座

萩平 哲